

鶏肉情勢

令和4年2月10日 更新

全農チキンフーズ(株)

項目	内容
供給	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和4年1月末実施)によると12月の推計実績は処理羽数67,662千羽(前年比101.8%)・処理重量207.2千ト(同102.4%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は1.3%上方修正し、処理重量も3.2%上方修正となった。特に関西・九州エリアは顕著に処理重量が計画を上回っており、生育状況は順調であることが数値に反映された。気候が比較的安定していることに加え、生産意欲が依然として高いようだ。 (2) 1月は各産地増体が良く、供給は潤沢だった。2月についての処理重量は前年並みではあるものの、新型コロナウイルスによる工場稼働への影響が全国で発生しており、工場休業や品目ごとの製造調整を実施している産地もあることから、銘柄・産地指定の納品先に対する欠品・調整が起きている。また、工場勤務の従業員出勤率が落ち込んでいる産地もあり、加工品や副産品(小肉・ハラミ・脂等)の調整が今後も見込まれる。
	2. 輸入 (1) 財務省1月28日公表の貿易統計によると令和3年12月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月の2,899ト増の6万671トで前年同月の実績を42.1%上回った。前月差ではタイが+1,605ト、ブラジルが+1,503トとなっており、国内在庫の減や近年流行しているテイクアウト向け需要の高まりを背景とした加工向け需要などから増加したのではないかと。1月以降についても農業畜産振興協議会(ALIC)の予測では、1月が51.6千ト(前年比105.5%)、2月が51.5千ト(前年比113.2%)となっており、増加傾向にある。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は4万8,209トで前年同月比109.2%と前年を上回った。前月差ではタイが+3,381ト、中国が+837トとなった。タイが前年同月比でも100%を上回っており、コロナウイルスによる工場稼働が落ちていると聞かれるが、前年並みの水準まで戻っている。しかしながら、平成30年-令和元年は年間輸入量が500千トを超えており、令和3年はその水準までの輸入量ではない。タイの供給体制が回復し、現在の総菜・中食需要が維持されれば輸入量が増加していくことも考えられるものの、出回りが過去5年間で比較しても増加していることから、輸入品在庫が急増することは考えにくい。また、原料原産地表示制度の経過措置は2022年3月末までとなっており、消費者の動向を注視していく必要がある。 (3) 安価な動物性タンパク源として世界的に鶏肉需要が増加しており、今後は日本への輸入量は徐々に安定してくると予想する。競合する国産ムネ肉の需給は流動的ではあるものの、国産鶏肉全体へ大きく影響することは考えにくい。
	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和3年12月の生鮮肉消費(購入)は数量4,707g(前年比91.7%)、金額8,115円(同96.0%)と前年を下回った。鶏肉は数量1,695g(同92.2%)・金額1,702円(同96.5%)と数量・金額共に4ヶ月ぶりに前年を下回る結果となった。しかし、単価については100.4円/100g(前年同月+4.5円)で前年を上回った。調理食品が金額15,247円(同100.8%)、外食が13,913円(同122.1%)となっており、内食から中食・外食へ消費が一部シフトしたと考える。
需要	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和4年1月の食品売上高は全店ベースで前年比99.2%と前年を下回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで前年比98.6%、既存店ベースでも同97.4%と前年を下回った。また、畜産部門の売上高は約1,337.5億円(同97.4%)、既存店ベース(同96.0%)とも前年を下回った。「内食需要の落ちつき、販売数量の減少傾向が続いているが、年末商戦では和牛など高単価商品や大型パック中心に好調に推移した。月を通じて国内産、輸入品共に価格高騰が続いており、販促も打ちにくく、伸び悩んだ。前年より気温が高く推移した地域では、すき焼きやしゃぶしゃぶ、鍋関連商材が低調となった。鶏肉は、今年は鳥インフルエンザの風評等の影響が少なく、好調に推移した。ハムなどギフトは不振となった店舗が多い。」と報告された。総菜部門の売上高は全店ベース(同104.2%)、既存店ベース(同102.4%)ともに前年を上回り、高水準を維持している。「クリスマスが週末と重なり、チキンなどの販売が大幅に伸長した。また帰省客の回復により、年末商戦では寿司やオードブルなどの大型パック、おせちの予約販売が好調となった。都市部では通勤再開などで夕方以降の人流が増加し、夜間売上の回復傾向も続く。寿司類は引き続き好調、揚物類も好調とのコメントが多い。近場への行楽や小規模イベントの再開により、弁当類も好調に推移。家飲み焼鳥やつまみ類も好調が継続。」と報告があった。野菜価格は安定しており、鶏肉を使用した鍋料理も増えるのではないかと期待される。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる令和3年12月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比101.6%の4,220トとなった。うち国内物は同97.9%の3,333トと前年を下回り、輸入物は同104.2%の887トと前年を上回った。前月同様に輸入原料を使用した加工品の製造量は増加しており、原料価格の高騰を見込む製造だと推測される。
在庫	1. 令和3年12月(2021年12月) (1) (独)農畜産業振興機構の推計期末在庫では国産35.5千ト(前年比132.2%・前月差+1.9千ト)、輸入品114.4千ト(同92.1%・同▲0.3千ト)と合計で149.9千ト(同99.2%・同+1.7千ト)となった。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構が発表した鶏肉需給表(令和4年2月7日更新)では、12月の出回りは国産155.0千ト(前年比102.1%・前月差+7.2千ト)、輸入品60.9千ト(同122.5%・同+9.6千ト)と合計で215.9千ト(同107.1%・同+16.8千ト)となった。12月以降の国産在庫については、年末に凍結した在庫の消化が進んでいないため、多少の投げ売りが発生する可能性がある一方で、コロナ禍による工場休業・製造調整等から供給が若干締まることから、在庫水準が高くなる可能性は低い。国内の輸入在庫の水準は落ちており、出回りが過去5年間で比較しても増加していることから、輸入品在庫が急増することは考えにくい、年度末を控えた一時的な投げ売りの可能性もある。
相場	1. 令和4年1月動向 (1) 令和4年1月の月平均相場は、モモ肉649円/kg(前月差+8円)・ムネ肉330円/kg(同▲10円)正肉合計で979円/2kgと前月差で2円下回り、前年差では46円下回った。モモ肉は月初658円、月末は643円までの15円の下がり幅となった。昨年は月初713円、月末707円の6円の下がり幅であった。需要は昨今の鶏肉ブーム等があることから一定の水準はあるものの、供給量が多く、昨年ほど需給が締まらなかったため、相場の下がり幅は昨年を上回ったと考えられる。ムネ肉相場は年末に凍結した在庫の消化や在庫積み増しを回避する動きから下げ基調であったが、競合する輸入鶏肉の在庫水準が低いこともあり前月から10円の下げに留まった。
	2. 見通し (1) 2月の生産量は前述のとおり前年並みと予測されているものの、コロナ禍による工場稼働への影響もあり、若干締まる可能性がある。一方需要面では、気象庁発表の「向こう1か月の天候の見通し(2月)」によると、2月の気温は東・西日本で前年並みか低い予測となっており、野菜価格が安定していることから鍋物需要が期待できることに加え、全国各地で適用されているまん延防止等適用措置により家計消費が再び内食へ回帰することも考えられる。以上から、モモ肉相場は1月並みの月平均645円前後と予測する。ムネ肉相場は加工原料としての引き合いが依然として強いものの、12月に凍結した凍結品消化があまり進んでいないため、やや下げの月平均320円と予測する。 (2) 今後、肉用鶏・種鶏農場で鳥インフルエンザが発生した場合は規模にもよるが、相場への影響も懸念される。また、輸入鶏肉については国内卸値が若干下落傾向ではあるが、生産コスト・為替・新型コロナの影響に加え国内在庫量がコロナ禍以前の水準まで戻っていないため先々を占うことは難しい。

実績

	生産状況							
	R3年12月推計実績		R4年1月計画		R4年2月計画		R4年3月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	69,221	99.6%	66,338	100.4%	59,670	101.0%	63,510	99.0%
処理羽数	67,662	101.8%	61,002	104.8%	58,262	101.6%	65,608	102.0%
処理重量	207.2	102.4%	181.0	103.1%	174.2	100.2%	196.3	101.2%

※参考資料:(株)全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年7月	44.7	51.6	86.8	43.9	38.4	114.3	88.6	90.0	98.5	50.5	49.5
R3年8月	46.9	40.3	116.4	44.1	33.2	132.6	91.0	73.6	123.7	51.6	48.4
R3年9月	45.2	41.5	109.0	31.8	35.2	90.3	77.0	76.7	100.4	58.7	41.3
R3年10月	51.2	47.9	106.9	35.2	39.2	89.8	86.4	87.1	99.2	59.3	40.7
R3年11月	57.8	45.3	127.5	43.8	42.7	102.4	101.5	88.0	115.3	56.9	43.1
R3年12月	60.7	42.7	142.1	48.2	44.1	109.2	108.9	86.8	125.4	55.7	44.3
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7

※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年7月	1,440	1,530	94.1	1,265	1,364	92.7
R3年8月	1,449	1,473	98.4	1,341	1,348	99.5
R3年9月	1,546	1,401	110.3	1,383	1,327	104.2
R3年10月	1,559	1,538	101.4	1,424	1,424	100.0
R3年11月	1,536	1,498	102.5	1,429	1,425	100.3
R3年12月	1,695	1,839	92.2	1,702	1,763	96.5
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9

※参考資料:総務省統計局HP 家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)

相場(年別・暦年)

	モモ肉	ムネ肉	計
H26年	626	294	920
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954

在庫状況(推定)

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年7月	34.5	29.5	117.0	113.7	140.6	80.9	148.3	170.1	87.1
R3年8月	34.9	28.0	124.6	111.4	139.2	80.1	146.3	167.1	87.5
R3年9月	33.8	27.8	121.6	107.6	138.4	77.7	141.4	166.2	85.0
R3年10月	34.7	26.8	129.3	108.2	134.1	80.7	142.9	160.9	88.8
R3年11月	33.6	26.4	127.0	114.7	131.3	87.4	148.2	157.7	94.0
R3年12月	35.5	26.8	132.2	114.4	124.3	92.1	149.9	151.1	99.2

※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年11月	619	654	94.6	333	302	110.3	952	956	99.6
R3年12月	641	687	93.3	340	311	109.3	981	998	98.3
R4年1月	649	711	91.3	330	314	105.1	979	1,025	95.5
R4年2月	(645)	701	92.0	(320)	305	104.9	(965)	1,006	95.9
R4年3月	(630)	691	91.2	(310)	304	102.0	(940)	995	94.5
R3年平均	641	614	104.4	313	269	116.4	954	883	108.0

※()は見通し  
※1-12月平均